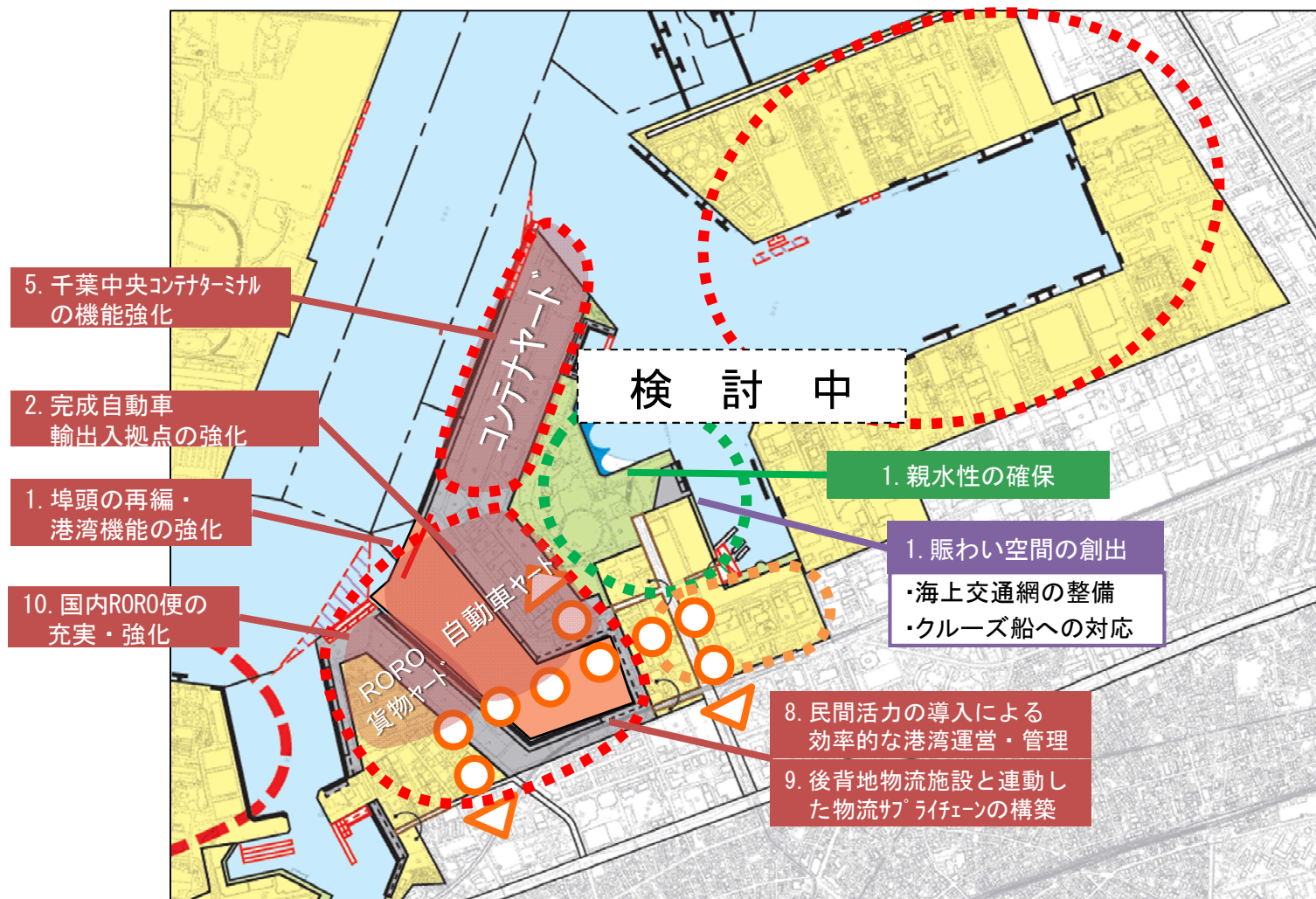


6-4 将来の空間利用イメージ

(4) 千葉中央地区の空間利用イメージ

- 中央ふ頭は、将来的に取扱の増加を見込む外資コンテナ貨物及び完成自動車を扱う「物流関連ゾーン」とし、外資コンテナ貨物、完成自動車貨物の取扱機能の強化を図ります。
- 出洲ふ頭は、増加が見込まれるRORO貨物を扱うヤードと上屋・倉庫が立地する「物流関連ゾーン」とします。
- 埋立により確保した用地は「物流関連ゾーン」とし、自動車貨物ヤードを配置するとともに、奥部には高機能物流倉庫等の整備・誘致を図ります。
- 埋立によって移設が必要となる官公庁船や曳船等の収容先の確保を図ります。



施策展開の凡例

将来像Ⅰ グローバル化、地域間競争の時代の県内企業の発展を支える千葉港

将来像Ⅱ 県民の生活と安心を支え、県民と共にある千葉港

将来像Ⅲ 環境を守り、人々が海を感じふれあえる千葉港

ゾーニングの凡例

- 物流関連ゾーン (Logistics-related zone)
- 産業ゾーン (Industrial zone)
- 親水・交流ゾーン (Waterfront/Exchange zone)
- 都市機能ゾーン (Urban function zone)
- 自然環境の保全・再生ゾーン (Natural environment conservation/regeneration zone)